

すぐそこにある未来の学び —マイクロクレデンシャルが変える学びの価値—

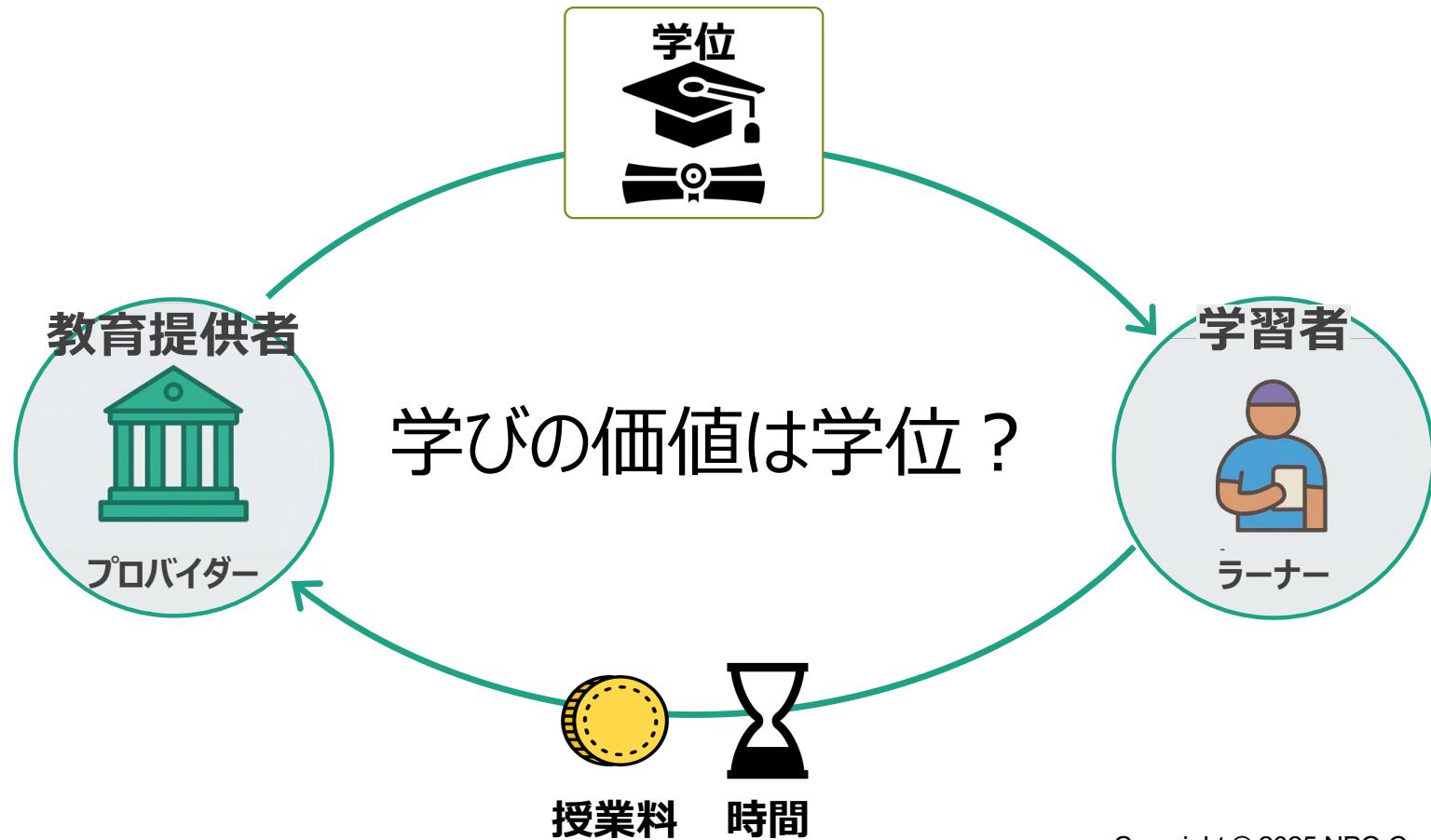
NPO法人コンソーシアムTIES附置研究所 主任研究員

大阪教育大学 学長補佐

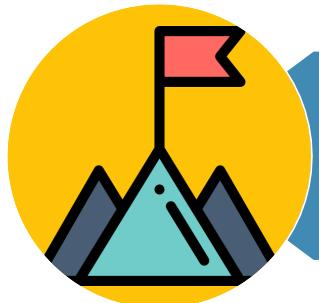
堀真寿美



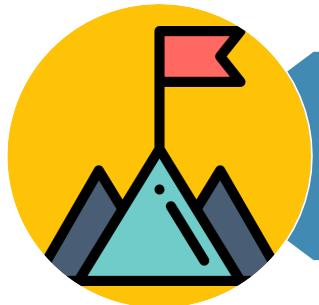
学校のためではなく人生のために学ぶ...



今日のゴール



すぐそこの未来で、学びの価値はどのように決まるのか



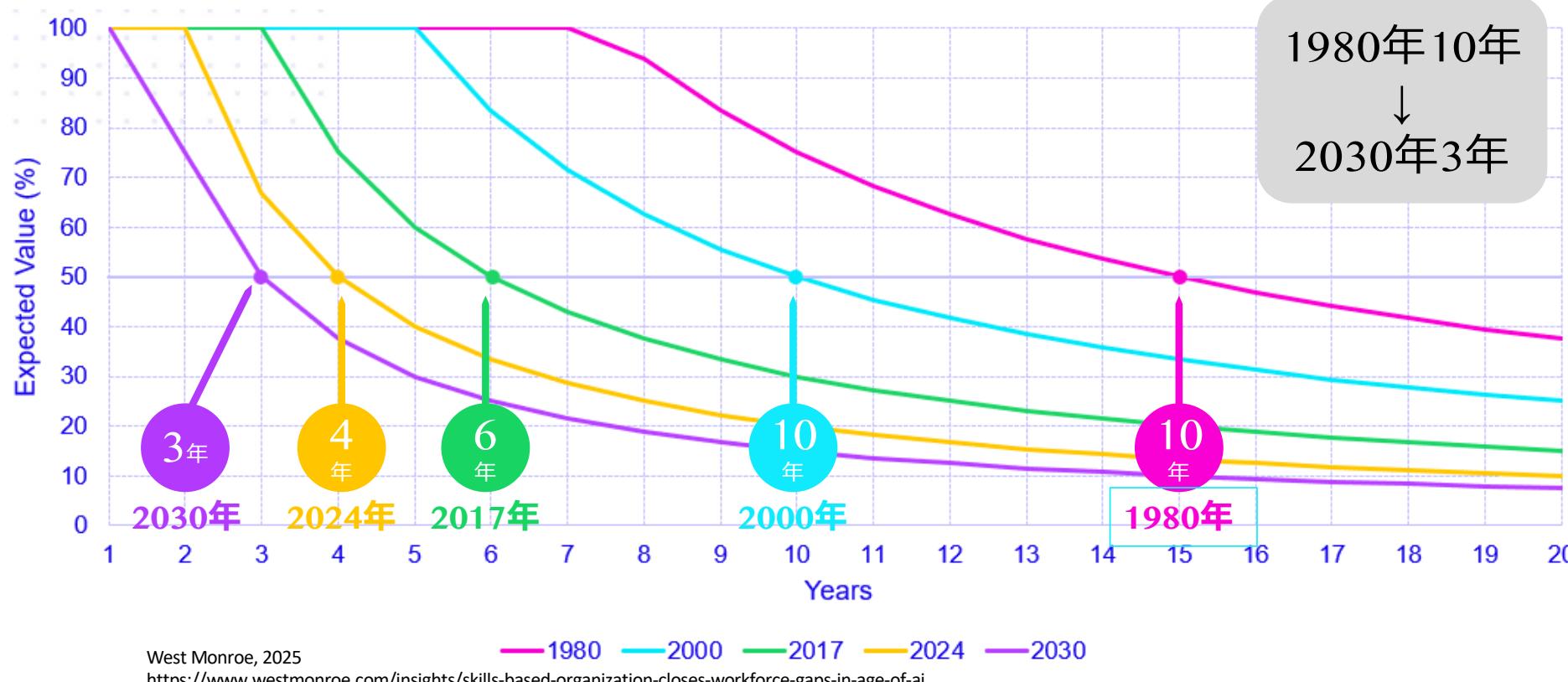
高等教育機関は、「新しい価値」を提供できるのか



今何がおこっているのか

スキルの陳腐化が加速

スキルの期待値の半減期



1980年10年
↓
2030年3年

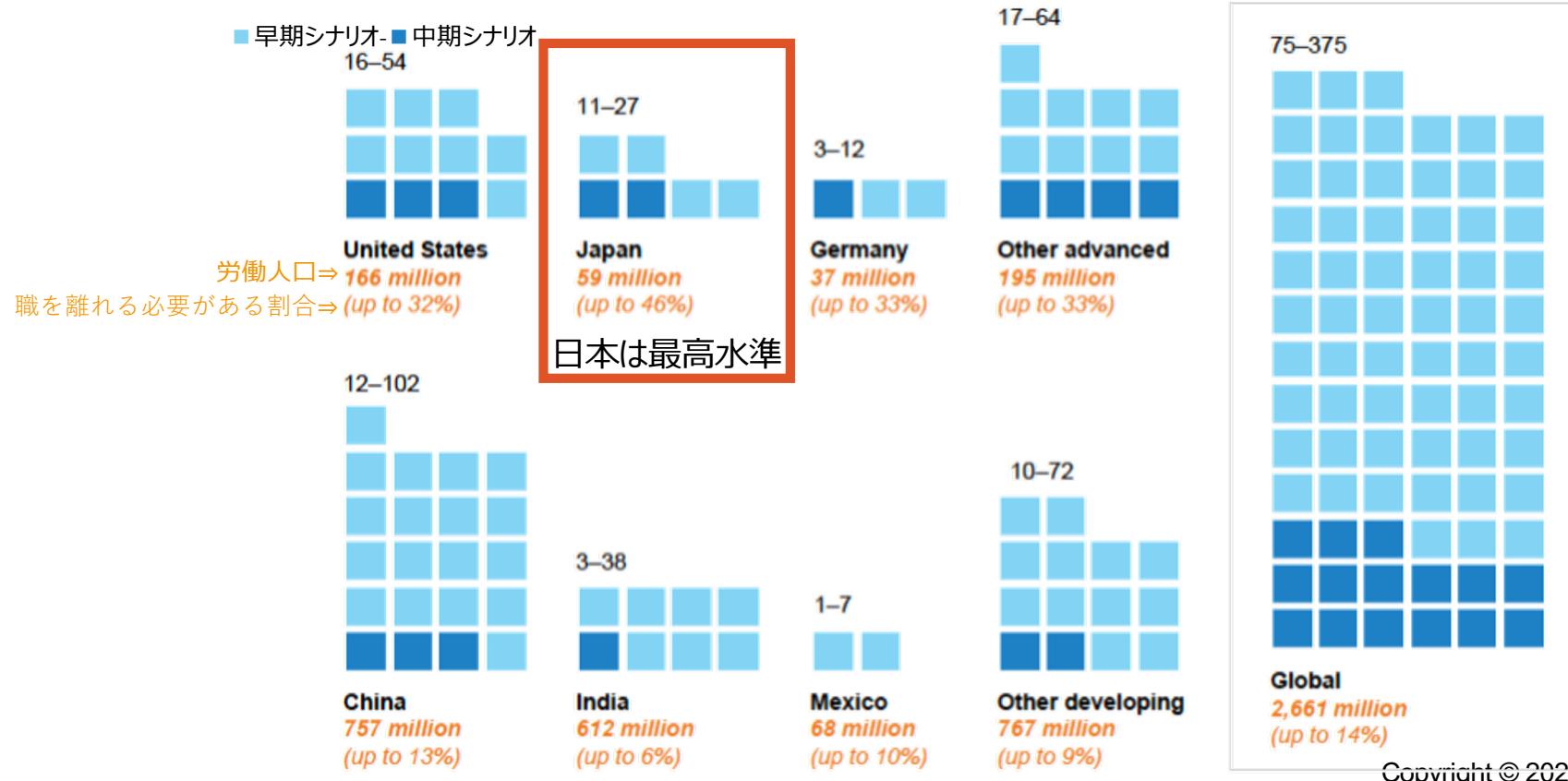
In 1980, a skill was expected to be valuable for the better part of a person's career.



Today, a skill may provide only limited value or even be obsolete within 5 years.

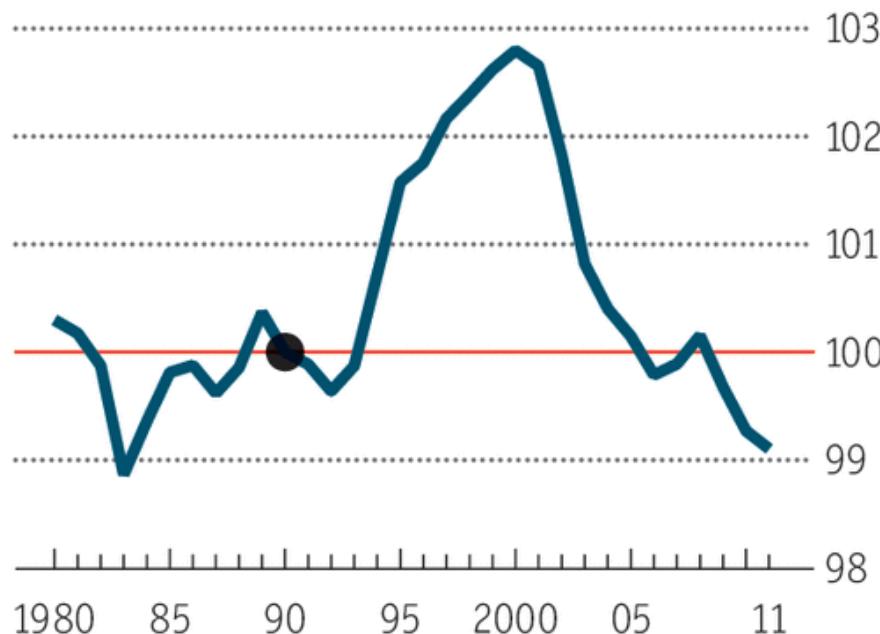
スキルが変われば仕事も変わる

2030年において、職を離れる必要がある人口



変化に追いつけない米国の大学

大卒者の認知的仕事をしている割合



<https://medium.com/navitas-ventures/the-rise-of-alternative-credentials-4410995ef72c>

学位要件を撤廃する企業

CAREERS

Google, Apple and 12 other companies that no longer require employees to have a college degree

Published Mon, Oct 8 2018 · 12:51 PM EDT • Updated Mon, Oct 8 2018 · 12:51 PM EDT

 Courtney Connley
@CLASSICALYCOURT

SHARE    



Apple CEO Tim Cook at an event to introduce the new 9.7-inch Apple iPad at Lane Tech College Prep High School on March 27, 2018 in Chicago, Illinois. Scott Olson | Getty Images

<https://www.cnbc.com/2018/08/16/15-companies-that-no-longer-require-employees-to-have-a-college-degree.html>

Copyright © 2024 NPO Consortium-TIES

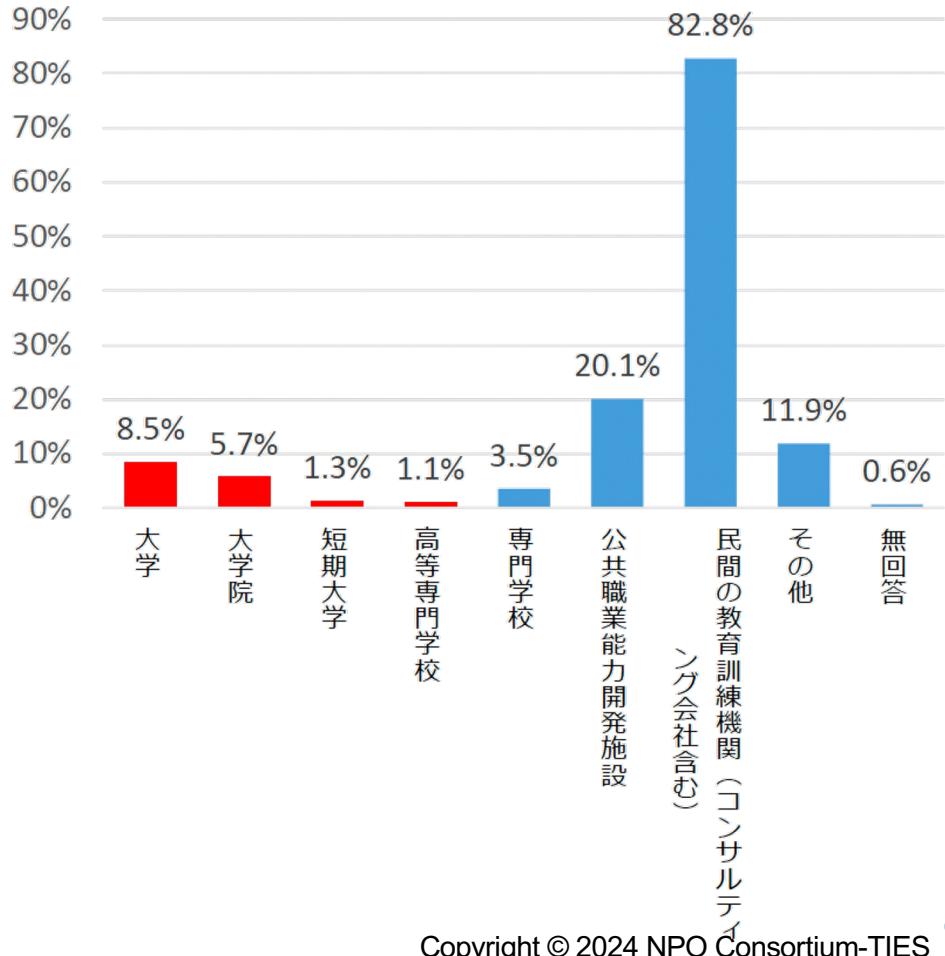
社会と接続できない日本の大学

企業研修を大学に頼る
企業は10%未満

大学等がリカレント教育に取り組む意義と推進に向けた方向性
総合教育政策局生涯学習推進課
リカレント教育・民間教育振興室長 西 明

企業研修で

活用する外部教育機関の種別（複数回答）



社会との接続を阻む構造的課題

運営費交付金

基礎額は正規定員。
短期講座は増額要
因がない。

私学助成金

収容定員は正規学
生のみカウント。
科目等履修は算定
根拠にならない。

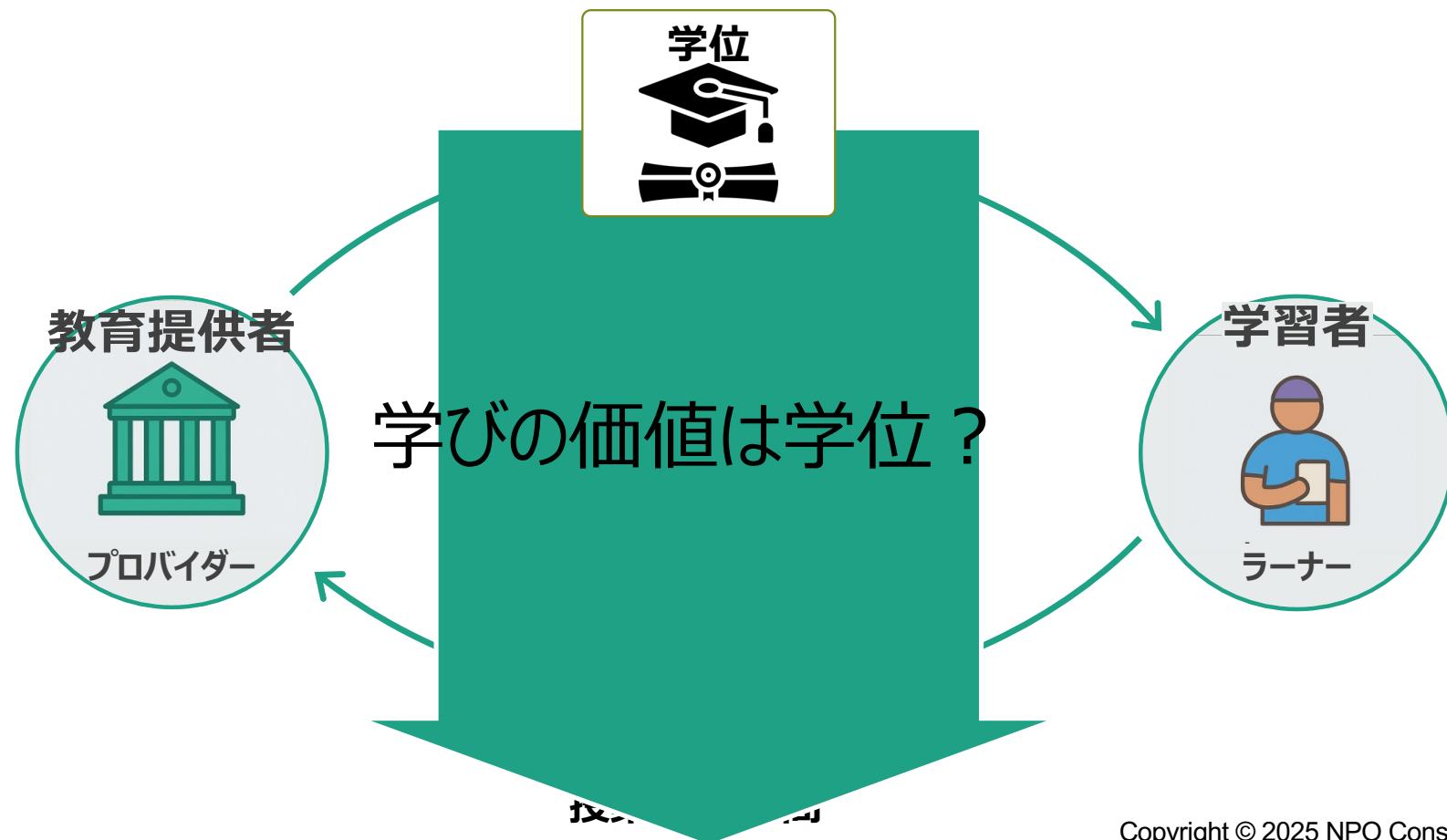
教員評価

研究論文
+ 18歳向け授業

マーケット／ブランド

18歳偏差値マーケッ
トがターゲット。
社会人はマーケット
が異なる。

学びの価値の低下





マイクロクレデンシャルの登場

マイクロクレデンシャル (MC) とは

学位より小さな学習単位の証明

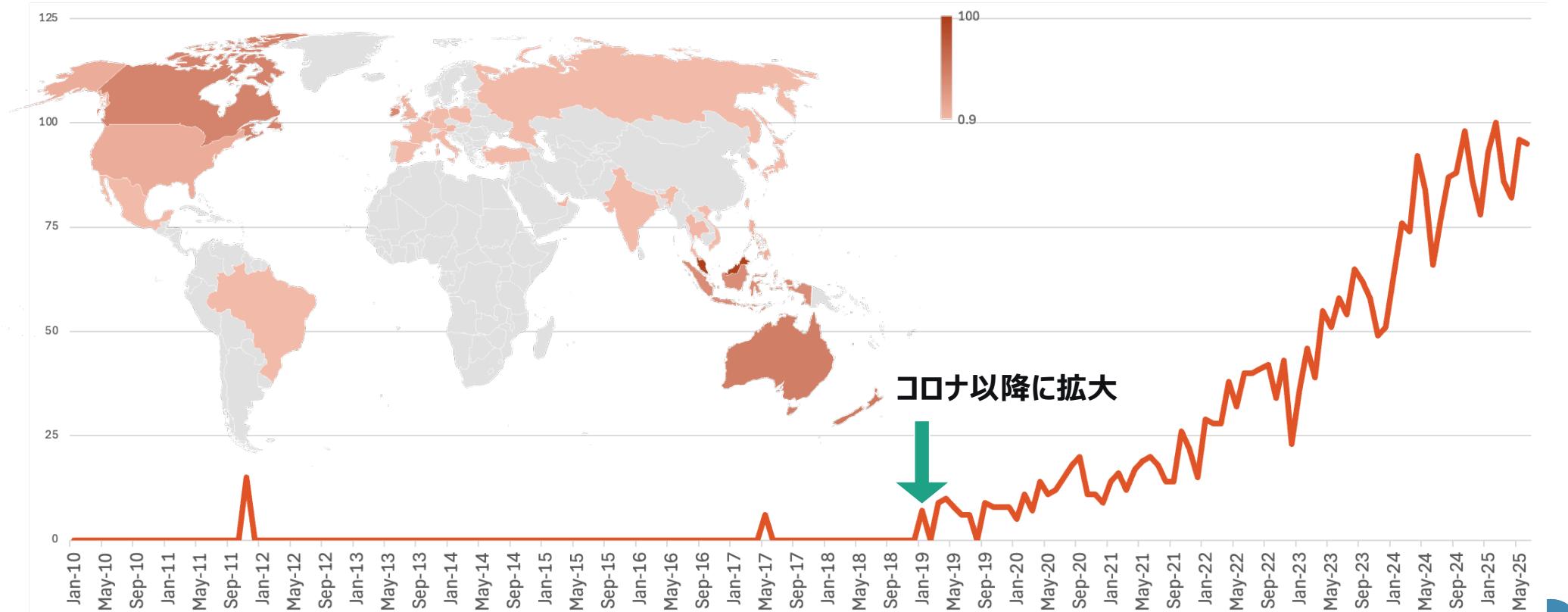


カリキュラム変更・開発
の負担減

最低限の投資で
労働市場に
アクセスできる

世界で拡大

Googleトレンド「microcredential」



米国のアプローチ

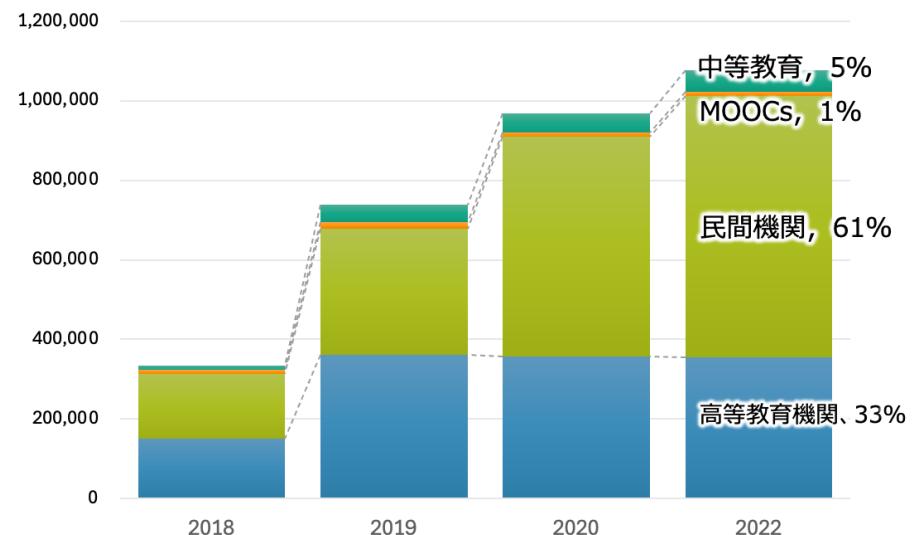
■ 特徴

- 民間主導（ベンダー資格）
- キャリアに直結
- 100万種類以上のMC

■ 課題

- 質のバラつき
- MCの信頼性に疑問

機関別マイクロクレデンシャル提供の推移



日本の状況

■ 特徴

- ユネスコに準拠した定義
- デジタルバッジという形で1万種以上のMC

■ 課題

- 自己満足で終わっている

マイクロクレデンシャル共同WG

マイクロクレデンシャルのフレームワーク(枠組み)1.0
Micro-credential Framework 1.0

作成: 2023-3-27
作成者: マイクロクレデンシャル共同WG Micro-credential Joint Working Group

1. マイクロクレデンシャルの定義
マイクロクレデンシャル (MC) は教育プログラム自体と教育プログラムの学修歴の証明という2つの側面を持つ。MCの定義として UNESCO の検討に基づく定義^[1]を採用する。UNESCO の定義は世界各国での MC の定義や OECD 等の調査研究を踏まえておこなわれた調査研究の成果である。この定義はマイクロクレデンシャルの本質を適切に表現しており、特定の国や地域に依存せずマイクロクレデンシャルの定義として妥当である。日本だけでなく世界各国で MC が承認され流通するための条件として UNESCO の定義を尊重する。

マイクロクレデンシャルは、
(1) 学習者が知っていること、理解していること、またはできることを証明する、対象が重点化された学修成果の記録である。
(2) 明確に定義された基準に基づいた評価 (assessment) を含み、信頼できる提供者によって授与される。
(3) 単独で価値を持ち、さらに他のマイクロクレデンシャルまたはマイクロクレデンシャルの一部を構成したり、それらを補完したりすることができる (既修得の認定も含める)。
(4) 関連する質保証が求める基準を満たす。

[1] UNESCO, Towards a common definition of micro-credentials, <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000381668>, 2022, 参照日 2023-2-7

2. マイクロクレデンシャルのフレームワーク (枠組み) の目的
・何を学ぶか決めるようしている学習者と、マイクロクレデンシャルを発行、認定しようとしている組織や機関と、学習者や従業員の学修成果や能力を理解しようとしている雇用主や職業団体に対して、マイクロクレデンシャルの共通の指針を設定することで、質の高いマイクロクレデンシャルを提供し、取得し、活用することを促進する。
・共通の指針としてマイクロクレデンシャルの定義を示す。

<https://www.openbadge.or.jp/partners/#:~:text=会員一覧%20%20総会員数%20355団>
<https://www.jmooc.jp/>マイクロクレデンシャルのデジタル証明書%20*%20バッジ種類数%201.5万種類%20*%20バッジ総発行数%20173万個

オープンバッジコンソーシアム

一般財団法人
オープンバッジ・ネットワーク
Learn for the Future

発行管理者ログイン
法人会員サイトログイン
ウォレットログイン
お問い合わせ

オープンバッジとは 入会案内 導入事例 セミナー情報 財団概要 会員一覧 よくあるご質問 お知らせ

会員一覧
Member list

総会員数 356団体
バッジ種類数 1.5万種類
バッジ総発行数 179万個

2023年5月31日現在

普通会員 連携会員 準会員 連携準会員

● 普通会員

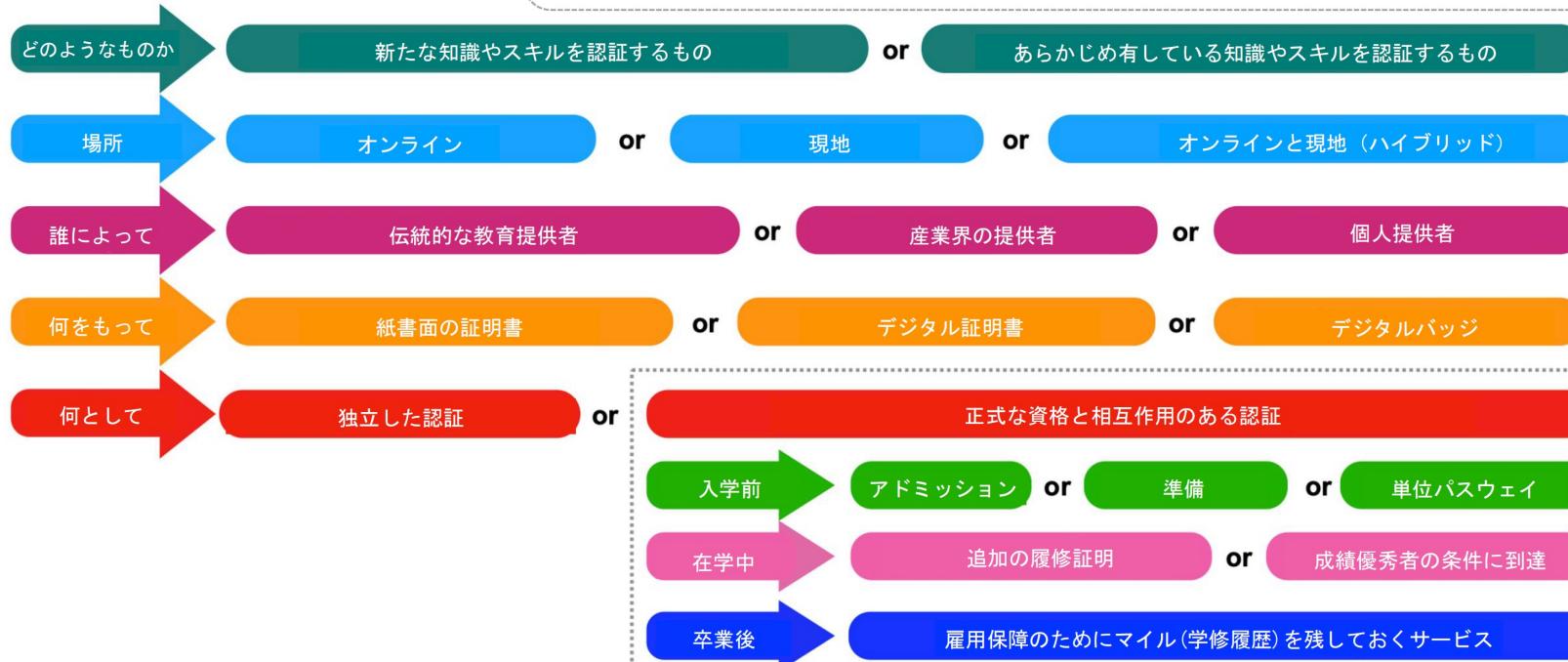
学校法人 一般企業 官公序・自治体 財団・社団・その他

様々なマイクロクレデンシャルの形態

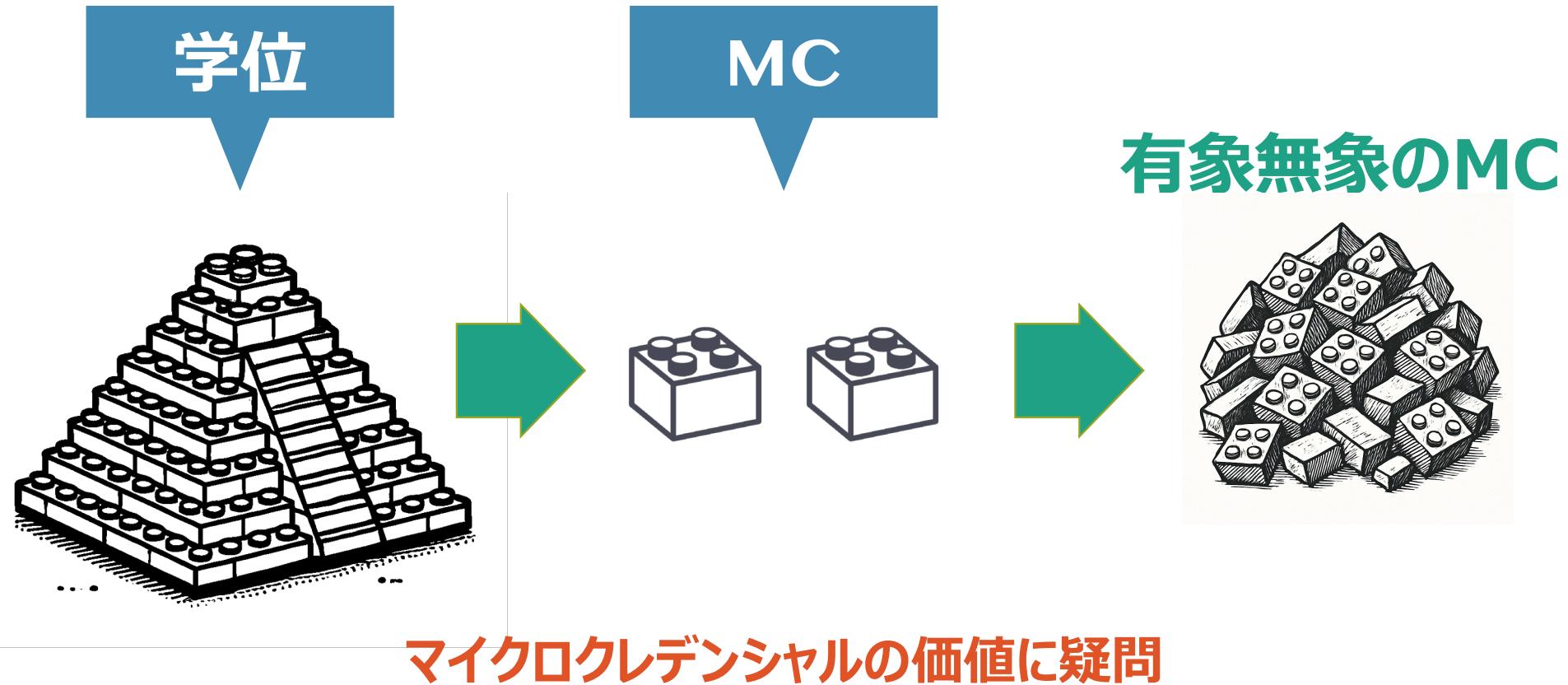
@ProfBevOliver

Micro-credentials

次のようなものとしても知られています：オルタナティブ・クレデンシャル、MOOCs、履修証明書、短期コース、ブートキャンプ、インテンシブ、MicroMasters、masterclasses、ナノディグリー、Specializationなど



マイクロクレデンシャルの氾濫





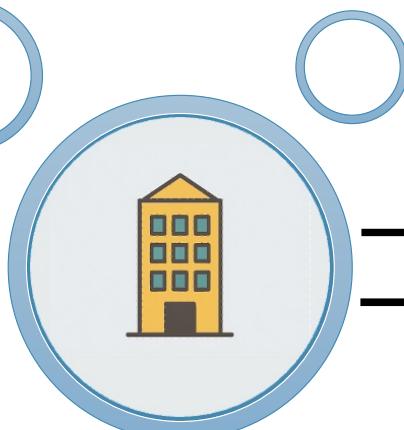
マイクロクレデンシャルの本当の意味

マイクロクレデンシャルの特徴

スタッカブル



コンシューマとROI



デジタル化

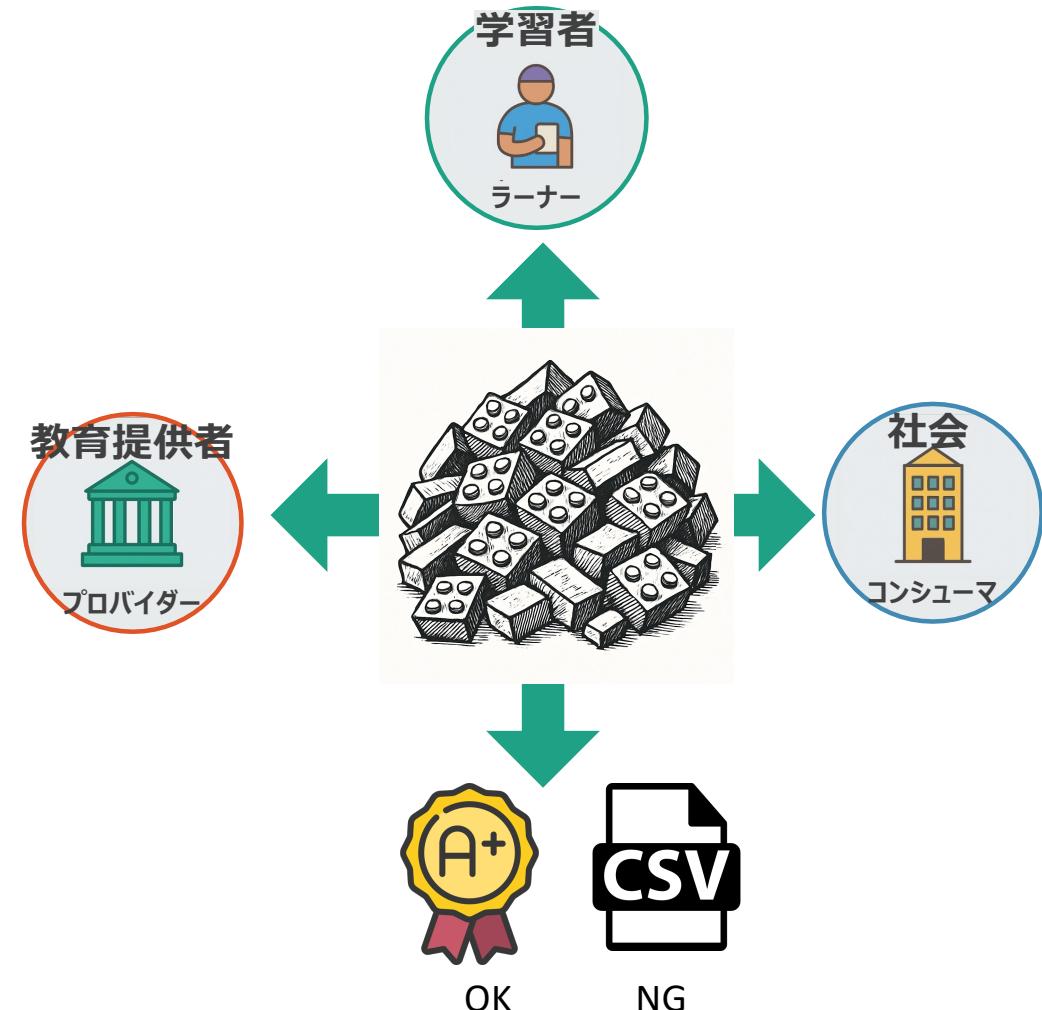
デジタル化

■ 膨大なM C

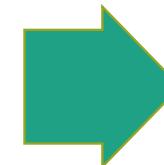
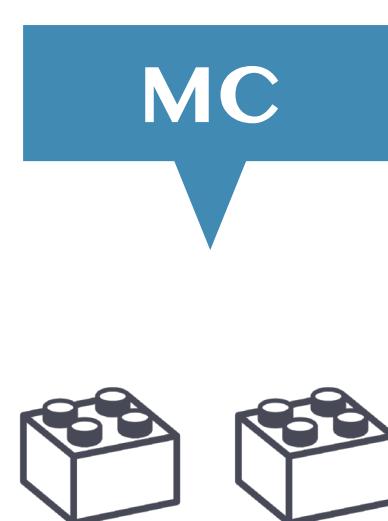
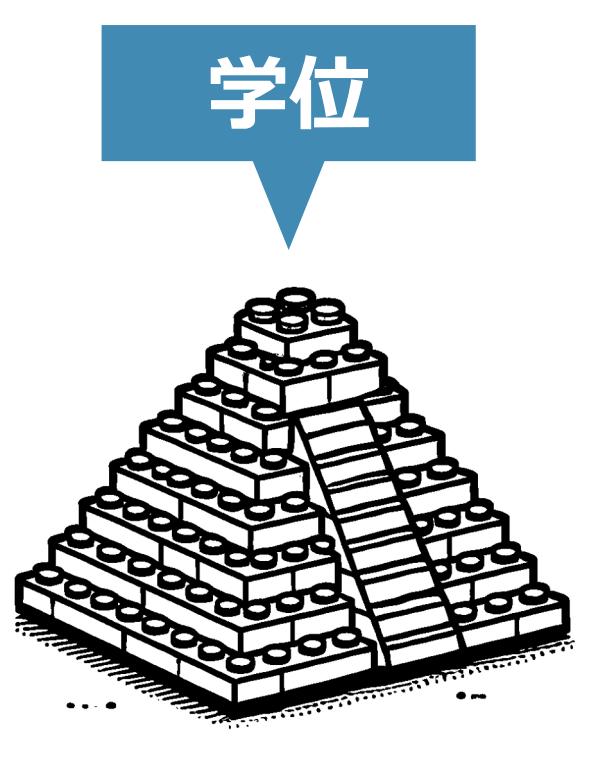
- 組織の垣根を超えて流通
- 安全・安心な管理
- 効率的



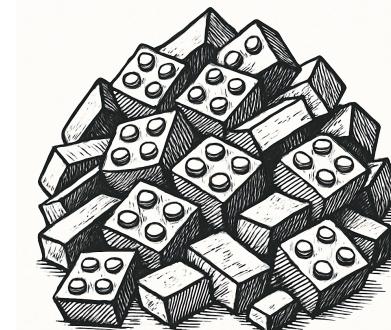
学習歴のデジタル化



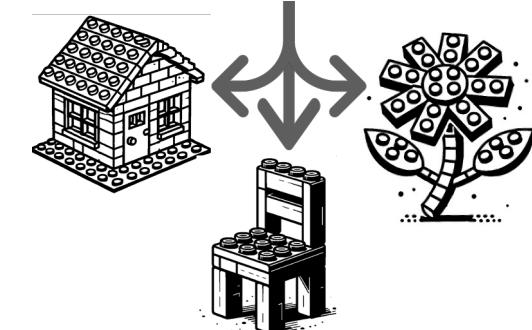
スタッカブルー積み重ね可能性



有象無象のMC



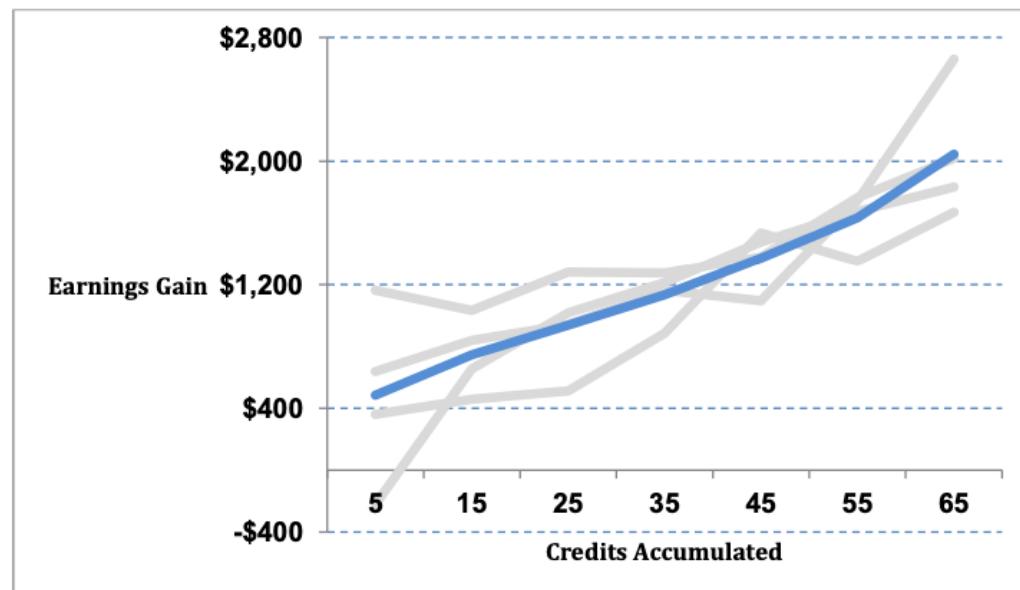
MCを積み重ねる



コンピテンシー

スタッカブルの効果

単位の累積数と収入

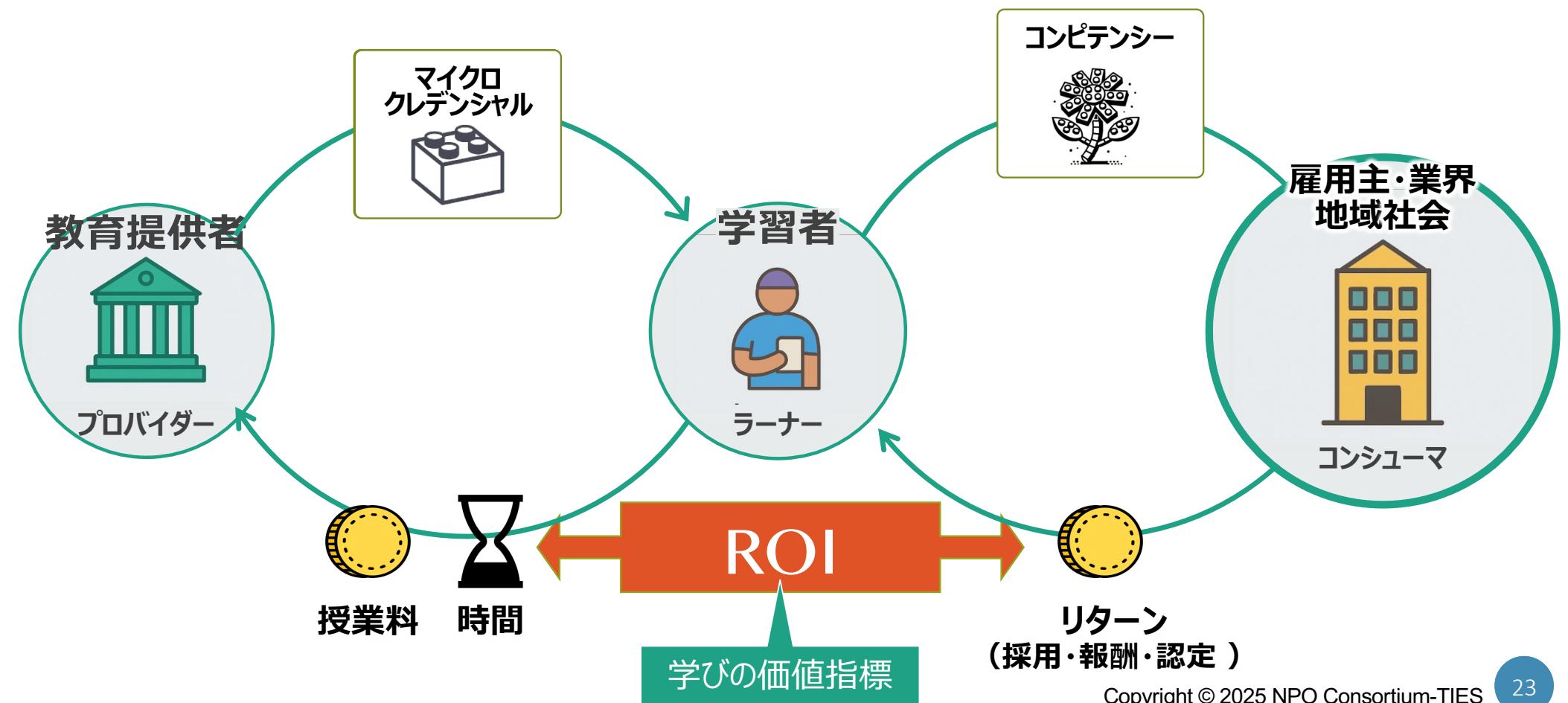


Note: Sources: Liu et al. (2015); Jaggars and Xu (2016). Blue line is average; light gray lines are male/female growth curves in North Carolina and Virginia.



学びの
継続性

コンシューマーとROI



欧洲のアプローチ

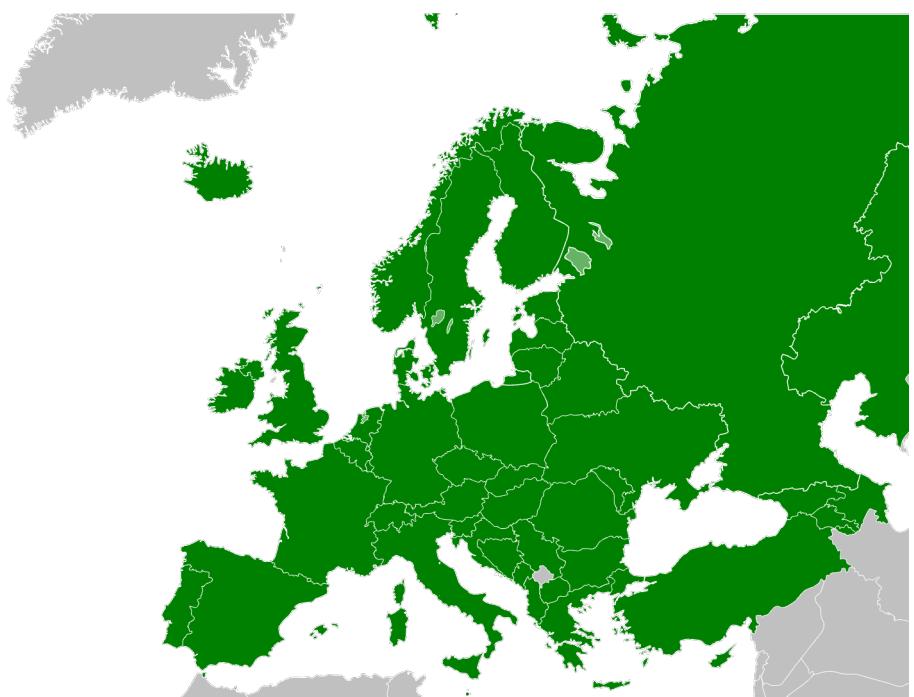
■ 特徴

- ECTS^{※1}, ECVET^{※2}と連動
- 政府・高等教育機関主導

■ 質保証

- ヨーロッパ資格枠組み (EQF) との整合性
- マイクロクレデンシャル向け新基準を策定中

ボローニャプロセス参加国（49ヶ国）



※1 : ECTS : European Credit Transfer System, ヨーロッパ共通単位制度

※2 : ECVET : European Credit system for Vocational Education and Training, 単位互換制度

欧洲大学のユースケース

スタッカブル

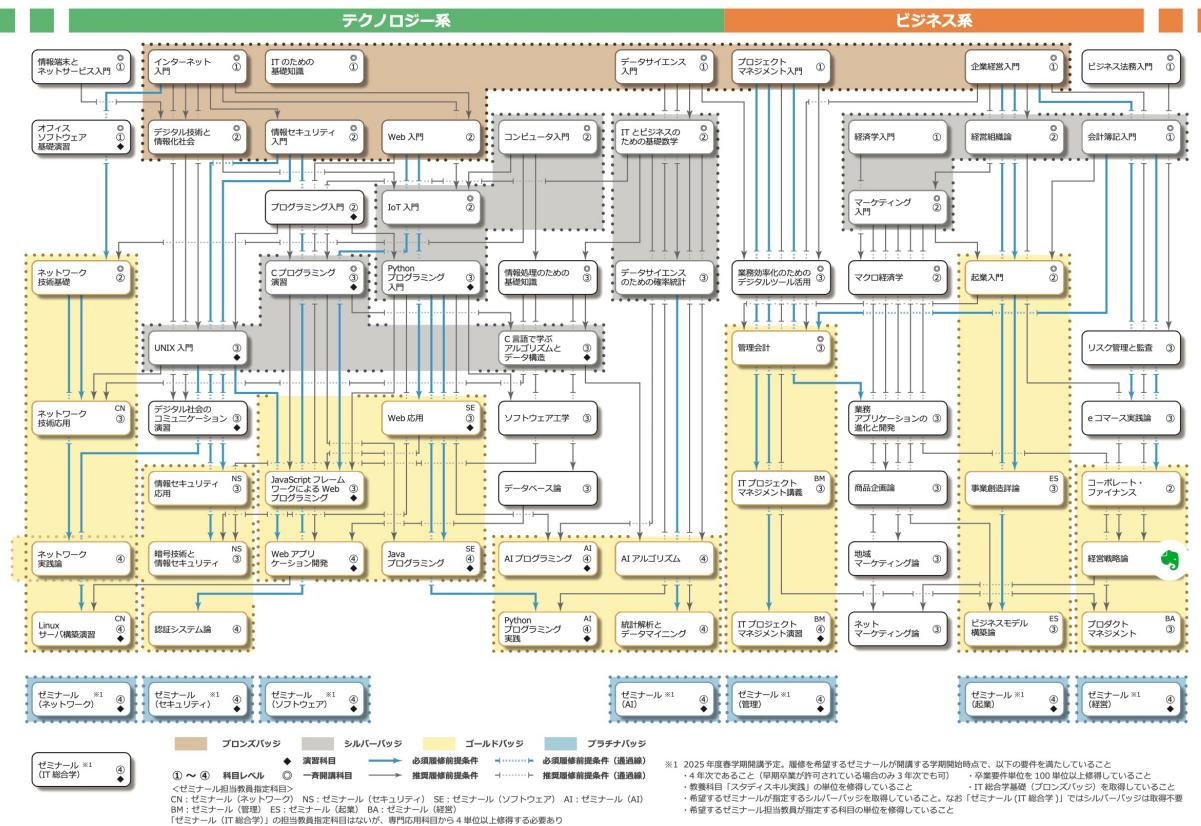
- 正式な学位の一部になる

ROI

ECVETの枠組みで職業訓練制度との整合性を意図
的に設計

スタッカブルのプラクティス：サイバー大学

マイクロクレデンシャルがかなえる学修者本位の多様な学び



https://www.cyber-u.ac.jp/pdf/faculty/curriculum_map_mc_24s.pdf

サイバー大学のユースケース

スタッカブル

- Bronze → Silver → Gold → Platinum
- 卒業後も科目等履修生で バッジを取得

ROI

- コンシューマが定義されていない

企業に対しCloud Campusブランドで「コンテンツ+プラットフォーム」のサービス提供

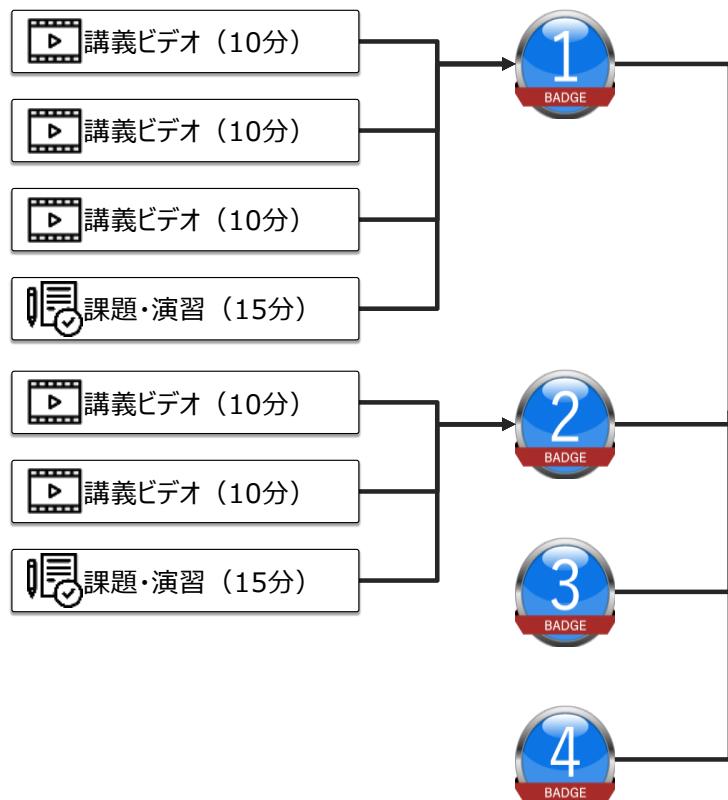
コンシューマのプラクティス：大阪教育大学

マイクロコンテンツ

スタンプ（バッジ）

修了バッジ

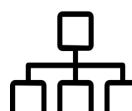
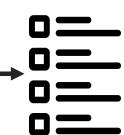
<https://o3edu.osaka-kyoiku.ac.jp>



免許・資格取得

特別支援学校
教諭免許状

普通免許状



学校図書館
司書教諭



単位認定

大学

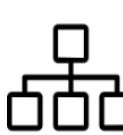
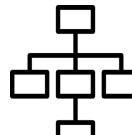
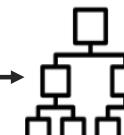


教育育成指標

大阪市
教育委員会

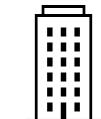
大阪府
教育委員会

堺市
教育委員会



法定研修認定

教育委員会



大阪教育大学

スタッカブル

- ・マイクロコンテンツスタンプ（バッジ）－修了バッジの階層構造

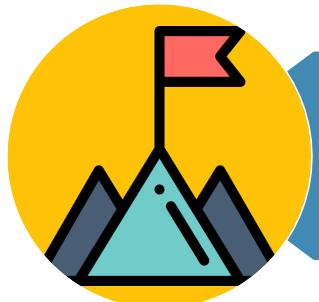
ROI

- ・コンシューマーを定義
- ・認定バッジで教員の法定研修の認定
- ・認定バッジで教職単位

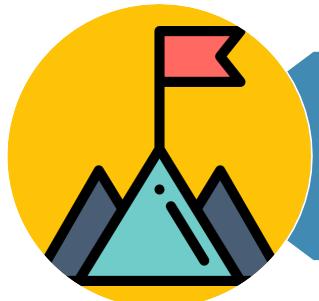


すぐそこにある未来の学び

今日のゴール（再掲）



すぐそこの未来で、学びの価値はどのように決まるのか

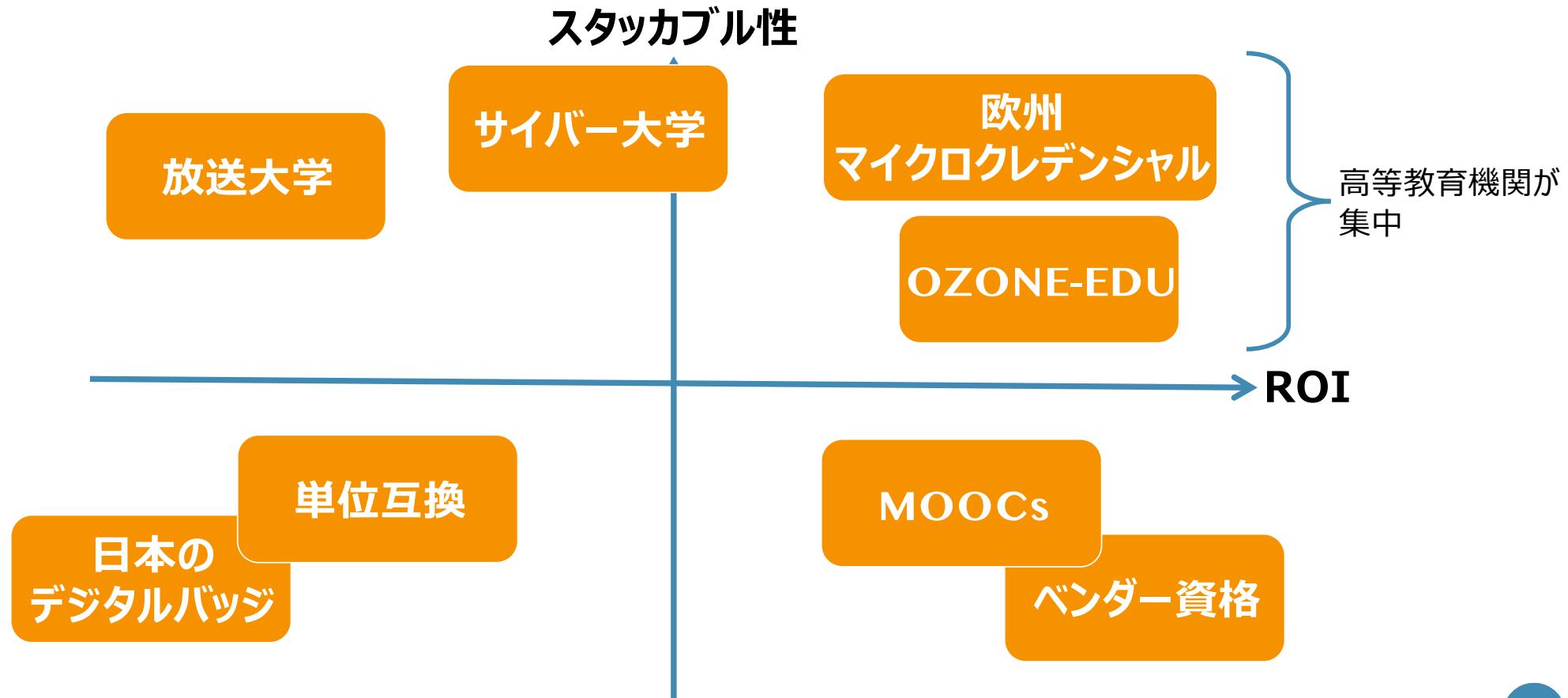


高等教育機関は、「新しい価値」を提供できるのか

すぐそこの未来で、学びの価値はどのように決まるのか

	いま	すぐそこの未来
価値証明手段	学位記	マイクロクレデンシャル
価値決定者	大学・学位フィルター企業	コンシューマ (雇用主・業界・地域社会)
価値指標	学校ブランド・偏差値	ROI
価値発見	卒業時に一括	学習直後にリアルタイム

高等教育機関は新しい価値を提供できるのか



マイクロクレデンシャルの教育の未来

学びのトラストが成立する社会





おわり